



鉄道高架工事も含む駅前大規模商店街の再開発 板橋区大山ハッピーロード大改造の定点観測②



造られてから33年、地元の人には馴染みのアーケードは存続するのだろうか？

写真は板橋区大山、東武東上線・大山駅前から始まる総延長560mのアーケード商店街（店舗数約200）として人気の高い《ハッピーロード大山商店街》だ。2月3日発行の本紙3179号の本欄で触れたように、ハッピーロード大山商店街（以下、ハッピーロード）周辺では今年1月から再開発計画が始動している。

この再開発計画はハッピーロードの入口となっている東武東上線大山駅の高架化（連続立体交差事業、大山駅南口から始まるハッピーロード一帯の再開発事業を連動して行おうとするものだが、東

京都・板橋区・東武鉄道が主体となる高架化事業は、2030年の竣工予定以外、工期等の詳細計画はまだ発表されていない。

また大山駅とは東上線の踏切を挟んだ反対（北口）側にも、ハッピーロードとほぼ同じ長さの遊座大山商店街がある（遊座大山商店街にはアーケードはない）。いずれ東上線の高架化が完成すると、ハッピーロードと合わせ、総延長1km以上の都内有数の大商店街

（1日の買い物客数が3〜4万人近い）になる。

ハッピーロードの再開発には、建物の老朽化など商店街自体の課題解決、東上線大山駅周辺の高架化とともに、商店街中央部を分断する形で、都道420号線（中野通り）を通す計画もある。

同時に都道420号線が通る付近の商店の移転と、その跡地には2棟のタワーマンション（26階建、A街区およびD街区）と8階建マンション（B街区）、3階建の建物（C街区）が建設され、A B D街区の建物の下層部は商業施設が入居する。

以上、4棟からなる再開発ビル群には「大山町クロスポイント」との呼称が付けられており、2023年夏には完成の予定だ。大山駅付近の高架化（総延長約1・6km）はその後に着工されるのかもしれない。

本欄の写真を撮影したのは4月初旬。移転すべき商店の移転がほぼ終わり、整地がだいぶ進捗しつつある状態だった。引き続き、定点観測していきたい。（未知草）